

20周年記念事業を終えたこと、学習指導要領に「伝統文化」の言葉が入ったことを受けて、むすびの会の活動の役割を改めて考えることを始めた2024年度でした。今年度も引き続き会員の皆さまとむすびの会ならではの役目を考え、今後の活動に繋げて行きたいです。



むすびの会への感謝

山本泰太郎
大蔵流狂言方
むすびの会理事



むすびの会という会が設立された最初の年に、お茶の水女子大学附属小学校で全校生徒を対象とした狂言会に出演させていただいたことが強く印象に残っております。その後も子どもを対象としたワークショップ、大学の授業でゲスト講師などを担当させていただきました。

小学校の国語の教科書にかつては掲載されていた狂言の台本が不掲載の時期に行われた前述の狂言会がきっかけとなり、再度、小学6年生の光村図書の国語教科書に狂言『柿山伏』が取り入れられるようになりました。この掲載は狂言界全体にとって大変に有り難いことでしたが、特に私共の山本家の台本で含めていただくこととなり、むすびの会には恩義を感じております。

狂言師は学校での公演や体験指導を頼まれることが多くあります。生徒さんからの感想を頂戴しますと、体験をしたことで発見があったり、親しみを感じてもらえるようになるのだなと感じます。皆さまに狂言を身近に感じてもらうには、鑑賞に加えて体験をいただくことに大きな効果があるように思います。このことからむすびの会において日本文化の普及をするために体験を大切にしている点に賛同いたしております。

むすびの会において自分に何ができるのか模索中ですが、皆さまに教えていただきながら勉強させていただきたく思っております。

むすびの会が長く活動が続けていくことに貢献できれば大変嬉しく存じます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

活動報告

1. 通常総会

2024年6月8日 第22回通常総会
東京立正短期大学（対面参加者 15名）

2. 講座主催

2024年6月8日

「韓国文化に秘められた「ハン」の要素
とその表現ー『春香傳』を事例としてー」

東京立正短期大学（参加者 33名）

講師：蔡美京（東京外国語大学非常勤講師）



事務局より

「ハン」という韓国文化に広く横たわる様々な感情が入り混じる複雑な情感についてパンソリの代表的な作品を用いてご紹介頂きました。

東京外国語大学の留学生(ブラジル、スロベニア、エストニア)たちからもコメントを頂戴し、歴史的、

民族的な悲しみが深いほど舞台作品では楽しく笑うような表現がなされている例など、悲しみや喜びの表現における文化の違いや芸能の存在について考える良い機会となりました。また国語の高校教師の会員さまより、韓国の文学作品の理解に役立ったというお言葉も嬉しく頂戴しました。

3. 指導者派事業

1)「日本舞踊体験」

夏休みお楽しみ教室での日本舞踊体験指導

講師：藤間卯京先生

2024年7月24日

東京都大田区立調布大塚小学校 希望者（3名）



小学校担当者より

浴衣もご準備いただいてみんな大満足でした！
低学年でしたので少人数で丁度良かったと思います。

2)「落語についてのお話と落語講座」

講師：立川ういん先生

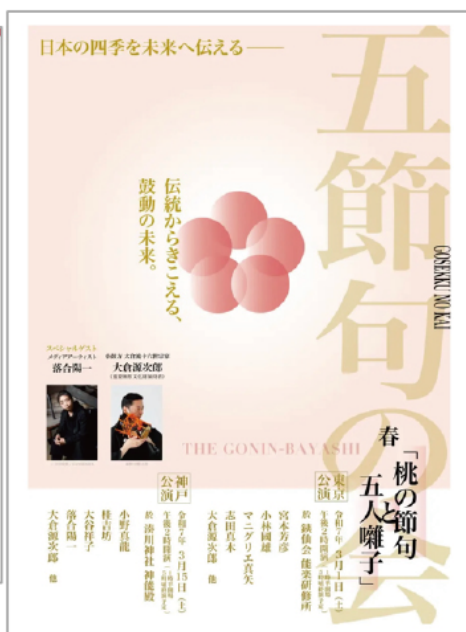
2024年12月12日 浦安市立見明川小学校 4年生（95名）

保護者さまより

落語をちゃんと聞くのは初めてでしたが、子ども達も盛り上がって参加していて、とても楽しそうでした。親も楽しめて豊かな時間を過ごさせて頂きました。

4. 協力事業

むすびの会では、EXPO2025 大阪・関西万博にて行われる「伝統文化未来共創 Project」を応援しています。特に6月3日～8日にポップアップステージにおいて行われる伝統芸能紹介ステージに向けてのプレイベント「五節句の会」にスタッフ協力をいたしました。



6月4日
むすびの会より
志田真木先生
（琉球舞踊）が
EXPO2025
大阪・関西万博
ポップアップス
テージにご出演！
是非に応援を！！

保育・教育現場に生かす伝統的な遊びの意義と

SNS を活用した配信事例

帝京科学大学 教育人間科学部/むすびの会理事 今西ひとみ

1. 昨今の日本を取り巻く環境と日本の伝統文化の継承

文部科学省による教育基本法第 2 条 (5) においては、その目標として「伝統と文化を尊重しそれらを母ぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに他国を尊重し国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」という文言が掲げられています (文部科学省, 2006)。

昨今の日本の少子化に歯止めがかからない一方、国内の産業や国民生活を今まで通り推し進めていかなければならない現状を鑑みると、外国人の労働力に一部頼らざるを得ない現状と今後の日本全体の教育の方向を真正面から向き合うべき時が来ています。言い換えると、今日まで続く日本文化を将来を担う若者に現状を包括しながらうまく継承することが、求められているといえます。

そうした中、筆者が属する幼児教育の立場からは、まずは子どもたちが、日本文化を遊びや生活の中で身近に感じながら、その根底にある文化意識を尊重し後続に繋ぐということに重きを置くべきかと考えられます。これを保育業界で言うところの 5 領域における「身体表現」や「健康」といった教育視点から俯瞰すると、子どもたちの心と体の健康に直結する「からだ遊び」、「運動遊び」に日本古来の伝統的な遊び (一般的に「伝承遊び」といわれる) を取り入れてゆくことが、後世に継承する上で大変有意義な方法と考えられます。

2. 日本文化を幼児の遊びや生活に取り入れる意義

日本の伝統的な遊びは、自身のさまざまな身体部位を使って遊びを楽しむことが可能であり、さらに、これらの遊びを行うことで年齢の異なる世代の人と対話ができたり、家庭内における自分と家族の遊びの歴史を比較することに発展することもできます。

これらの例のように、国内の伝統文化を子ども達の保育に取り入れるメリットは様々に数限りなく存在すると考えられます。中でもわかりやすく基本的事項としては以下の

- (1) 伝統文化に根ざす遊びは、からだを用いたシンプルな遊びである
- (2) 遊びを介して、世代を超えたコミュニケーションを可能とする
- (3) 伝統文化にねざす遊びは、ひとりでも仲間とでも遊びが成立する
- (4) 歌いながら遊びを行うことで、自分でテンポや動きを調整・工夫できる

などがあげられるでしょう。

3. 具体的な伝統的な遊び（伝承あそび）

では実際に保育園や幼稚園で保育者は、具体的に、どんな伝統的な遊びを取り入れており、どんなことを意識しながら実践しているのでしょうか。たとえば、鬼遊びや竹馬を取り上げてみましょう。

鬼遊びは「鬼」に捕まらないように子どもたちが逃げまわる単純な遊びですが、子どもたちが自分でルールを加えることで、様々な鬼遊びに変化させることが可能です。また行う場所も、広い空間で伸び伸びと走り回れるところ、起伏がある場所や砂場などを飛び越えたり遊具を回避したりする必要のあるところなど、運動量の変化も意図的、無意図的にかかわらず変化をつけることができる遊びでもあります。

竹馬は、足の裏を使って竹に乗った部分を上手にバランスを取り、自身の手足の力で重心をコントロールしながら移動を行う遊びです。最初は乗るだけでも精いっぱいですが、いったんコツをつかむと、数歩から一定の距離を稼ぐまで乗って歩き続けることが可能となります。「相撲」や「けんけんぱ」も、身体や手足の重心移動のバランスを上手に使いながら動き回る遊びです。

けん玉は決められた遊具の台に球を乗せるために、下肢の曲げ伸ばしによって乗せるタイミングを図ります。これらは電子ゲームのように手指だけを集中する遊びでなく、実は身体全体を動かしながら、上肢、下肢の機能を無意識のうちに統合させる遊びです。このように、日本に昔から伝わる身体を動かす遊びは、身体機能を余すことなく体幹を使い、無意識のうちに重心の移動やバランス能力を獲得する遊びとなっているものが多いといえます。



一方、お手玉や「ミカンの花」などの遊びは、身体部位の中でも主に、手を用い、自分で歌う歌詞のリズムにあわせて、決まった手と身体の動きを実践しながら相手と動きを協応させ楽しむ遊びです。

さらに比較的身体の全域を使う「大きな栗の木の下で」「糸巻きの歌」などのお遊戯も、自身の歌(リズム)と手や身体の動きを用いたからだ遊び(※保育領域では表現遊びという)の例といえます。

これらの遊び(表現遊び)の特徴は、

歌を口ずさみながら、リズムにあわせて一連の動作を行う必要がある

お手玉を自分で上に投げ、落下点で自分キャッチする必要がある

など、表現活動(歌やダンス、身振り)を行いながら運動的要素も加味された遊びであり、一度に複数の感覚の統合が求められる幼児期の子どもの運動発達をサポートする望ましい遊びと考えられます。



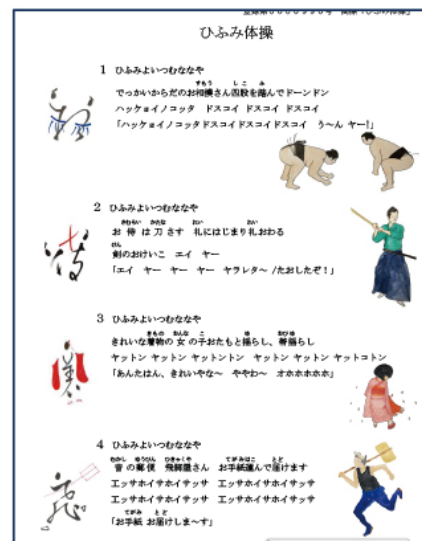
(日本舞踊に挑戦する女兒の様子)

4. ひふみ体操の紹介とその実践例

保育現場に取り入れたい伝統的な遊びの特徴をまとめると、実はむすびの会で紹介されている「ひふみ体操」もこれらの特徴があてはまり、かつ効果的であることが明らかです。ここでは実際に「ひふみ体操」を保育現場や教育現場で実践した例についてみてみましょう。

もともと「ひふみ体操」は、NPO 法人むすびの会が、日本の伝統芸能によくある動きをもとに、保育における幼児の表現遊びとして開発・創作した体操で、その目的は、日本の子ども達が日本の伝承的な動きや歌を元にした遊びとかかわりながら健やかな成長を遂げることにあります。

具体的には、保育者養成校の「表現」「健康」をはじめとする身体領域に関わる授業の中で、教職や保育者を目指す学生に教材として提供され、実習等での教材として実践されています。またむすびの会自体も会員の方はご存じのように、保育現場や教育現場に向けて伝統的な表現遊びの教材提供として会から派遣事業を行う活動もしています。



さらに昨今では、ひふみ体操は動画の配信も保育養成校などの SNS 上でなされており、同時に多くの登録者に閲覧されています。ここでは具体的な動画の配信状況について紹介します。

(1) 動画での配信について

「ひふみ体操」の様々な関連動画については、複数ある中でも TikTok や Instagram で配信した一例として、現時点で約 2000 回/日近くの間覧がカウントされ現在も更新中です。



(ひふみ体操を題材とした SNS 画面 活用の例)

参考までに簡易な分析指標 (TikTok 機能の自己分析) をみると、視聴者の年代は 10 代から 50 代まで幅広く確認されており、性別については、男女比が 3 : 7、閲覧者の全体約 3 割が 30-40 代となっています。他の特徴としては、動画のフォロワーの多くに、保育や介護に関連する団体やグループなどが含まれることを考慮すると、この動画は 保育者あるいは施設の職員など教員的な立場の視点で視聴されていることが推察されます。

何れにしても ①伝統芸能の動きの要素多く取り入れた遊び「ひふみ体操」が、保育養成校の表現あそびの教材として保育現場や実習の場で取り入れることのできる事例となっていること、②体操を動画としてアップする



(ひふみ体操上演の様子)

ことで、広く教材や遊びとして閲覧される可能性もあることが確認できました。

(2) ステージでの作品紹介について

また 2025 年 3 月 17 日に代々木オリンピックセンターにおける専門学校大学ダンス連盟発表会において、保育にとり入れる際の体操の一作品としてステージ上でひふみ体操を発表しました。発表の前にナレーションで

「日本には『お遊戯』といって、子どもたちが遊びの中で歌を口ずさみながら踊る「表現遊び」があることから、本日は日本の伝統に根差したキャラクター「お相撲さん、おさむらい、着物の女の子、飛脚屋（ひきやくや）さん」を演じる「保育表現遊び」を発表します”

の解説を入れて実際のひふみ体操を披露する前になぜダンスの発表会にこの「ひふみ体操」が披露されるのか、その背景を理解してもらう効果を考えながら紹介しました。

(3) まとめ

上記 (1) 動画での配信、および (2) ステージ上での発表について、自由記述のアンケートから

○体育の教材にとりいれたい ○保育実習指導案の教材として実践したい

○子どもと実際にやってみたい ○簡単なのに、皆でやることで連帯感が生まれたなどの感想が得られました。こうしたことにより、日本の伝承遊びや日本の伝統芸能を取り入れたコンテンツを教育現場や保育現場に還元して実施すること、また動画で配信することで保育、介護施設団体やグループを含めた幅広い世代への視聴を介して、結果的には後続世代への伝統文化の普及に結びつくことが考えられます。特に動画の配信については、繰り返しの閲覧が可能であることから、教員や保育者、子育て中の保護者にも身近に取り入れやすい教育ツールであることは否めません。今後、も様々な伝統文化に関連する遊びを教育の現場で実践し、かつ動画を配信しながら、日本の伝統文化を後続に普及させる活動につなげていきたいと思ひます。

【参考文献】今西ひとみ(2025)「生涯における領域「健康」の役割」『保育内容《健康》』
澤田美砂子編 学術図書出版社

むすびの会HP <https://www.musubinokai.org>

発行 2025 年 3 月 特定非営利活動法人 日本伝統芸能教育普及協会 むすびの会
〒145-0071 東京都大田区田園調布 1-12-14-207 <https://www.musubinokai.org>